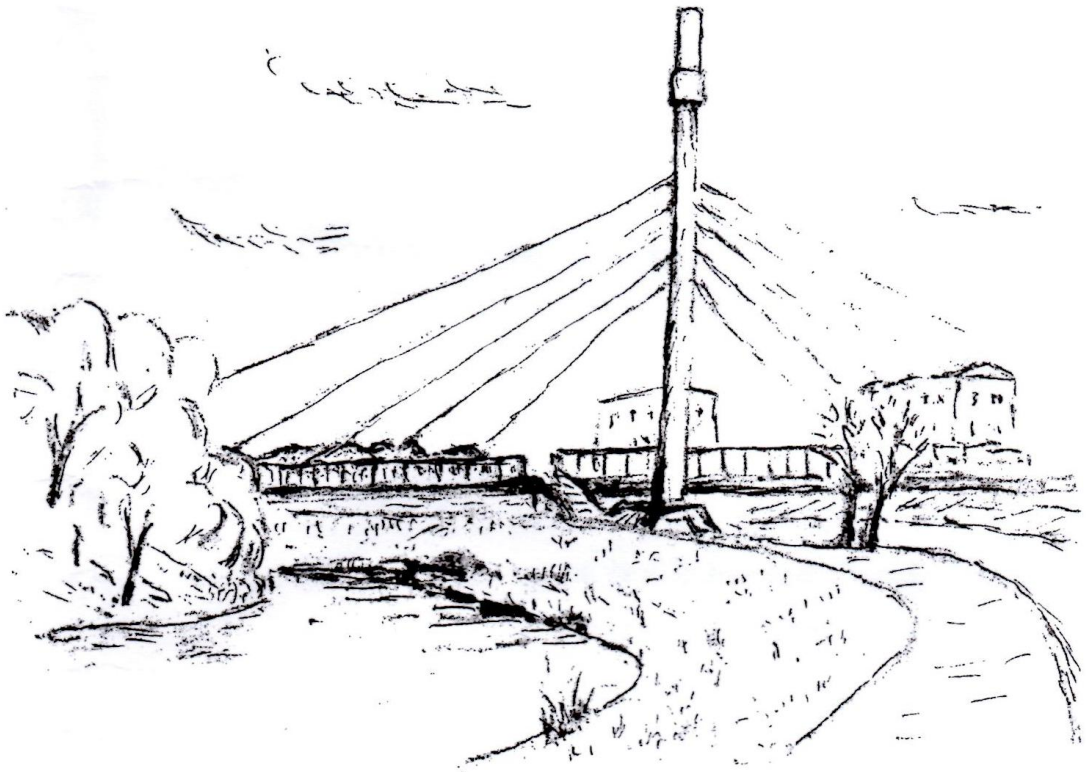


平成24年4月27日(金)

第426回 史跡めぐり

# 日本最古で、最も新しい?公園 ポケットパーク

春の陽光のもと、みんなで豊かな  
緑と水の市内・大相模地区を散策しましょう



中土手から眺めたしらこぼと橋

NPO 法人越谷市郷土研究会

## 第426回 史跡めぐり

緑と水に恵まれた歴史ある大相模地域を散策し、奈良時代に創建されたあ大聖寺を見学、日本最古といわれる農業用水の煉瓦造り取水施設の谷古田用水堰樋とポケットパークを見学します。

実施日 平成24年4月27日(金)

集合 中央公民館前 午前8時45分

参加費 500円(資料、保険料など)

コース

中央公民館 8:45 → 中土手 → 赤水門 → 画家・斉藤豊作の生家跡 → 大聖寺 → 不動道 → 馬頭橋 → 八条用水緑道 → ポケットパーク → 瓦曾根溜井 → 中央公民館で解散 11時45分の予定

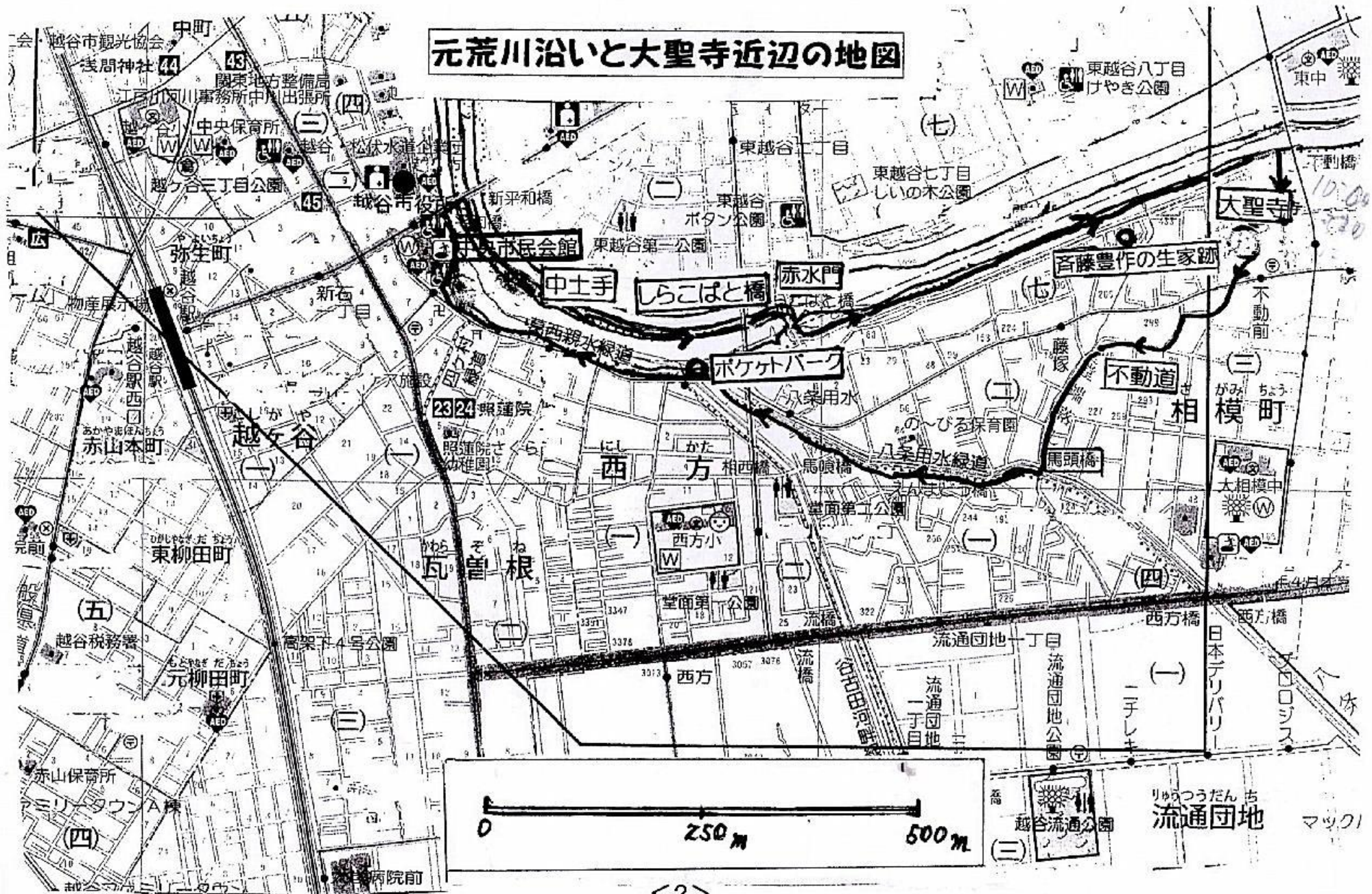
### 説明場所

- ① 赤水門
- ② 画家・斉藤豊作の生家跡とタブの木
- ③ 大聖寺(家康の寝衣・古文書)の文化財見学と境内散策
- ④ 不動道
- ⑤ 八条用水
- ⑥ ポケットパーク
- ⑦ 瓦曾根溜井

案内者 常任理事 田端 功政



# 元荒川沿いと大聖寺近辺の地図









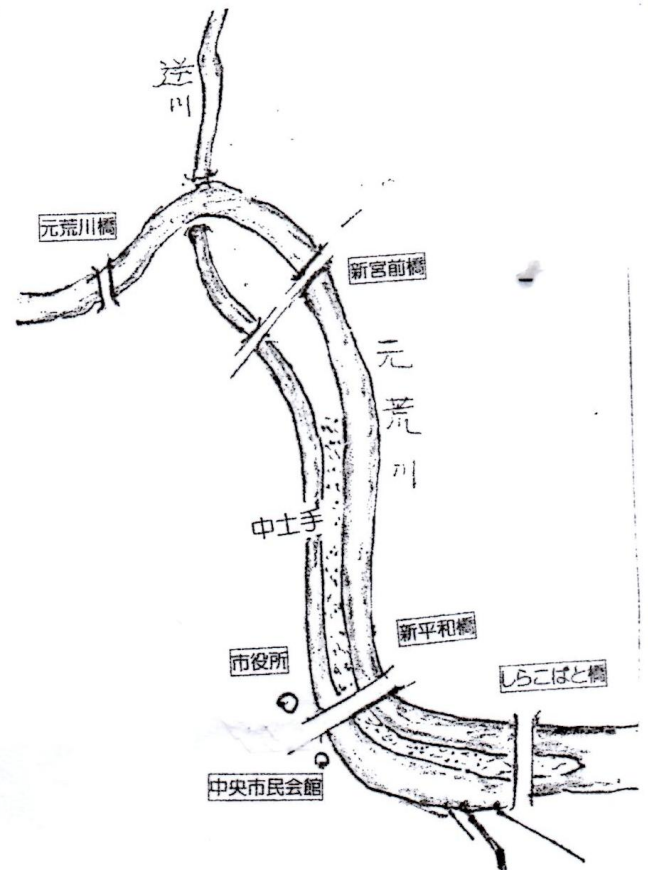
## 中土手



昭和22年(1947)カスリーン台風で利根川堰の決壊により大水害が発生した。また越谷地方でも台風襲来のおと水害にみまわれた。これにより政府は国内情勢が好転した25年頃より利根川、荒川を中心に河川の改修計画が立られた。

昭和35年(1961)瓦曾根溜井の用排水分離工事を進め、松伏溜井より逆川(葛西用水)を大沢地蔵橋地先で元荒川の下を通し(伏越という)、対岸の御殿町よりは新たに水路を開き、柳町地内で溜井に接続させた。葛西用水と元荒川は分断した瀬割堰(中土手)を築き、瓦曾根堰枠(水門)までは二筋の独立した水路とし、昭和41年に完成した。

新平和橋が新たに架設され、この時埋め立てられた敷地の内9000坪の払い下げをうけて、越谷市役所が昭和44年に完成し移転した。



## 赤水門



☆ 赤水門とは

大正13年(1924)瓦曾根堰はこれまでの石堰を廃止し、鉄筋コンクリート造り鋼製水門10門の堰が築造され、錆止めの塗装が朱色だったため(赤水門)とよばれた。

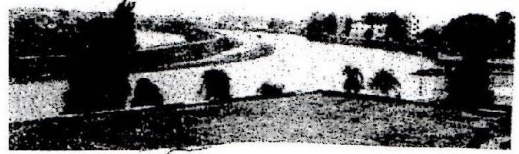
☆ 旧堰取り壊し

平成9年旧堰を取り壊し、現在の新堰2門を造成した。

## 瓦曾根堰・溜井と葛西用水

### ☆ 瓦曾根溜井

慶長19年(1614)荒川の流れをせき止め溜井とし、八条用水・四ヶ村用水として利用した。



### ☆ 洪水対策と新田開発

徳川家康、江戸城入城後、関東平野の新田開発と洪水対策のため文禄3年(1594)より利根川の東遷工事を始めた。完成までに約60年かかった。

### ☆ 葛西用水

宝永元年(1704)の洪水により機能が低下した中島用水に替わり、享保4年(1719)上川俣(羽生市)の利根川に水門を増設し、幸手用水に加水した 用水の経路は

利根川→ 幸手用水 → 琵琶溜井(久喜市) → 古利根川 →  
松伏溜井→ 鷲後用水(逆川)→ 元荒川 → 瓦曾根溜井 →  
葛西用水→ 亀有用水になった。

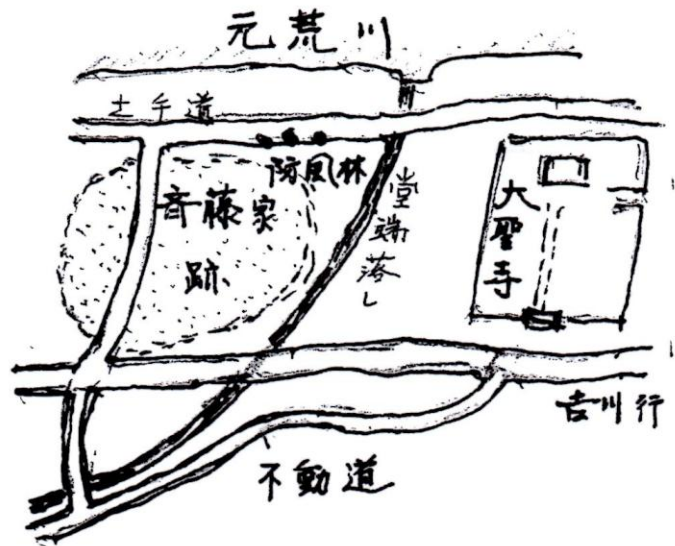
## 斉藤豊作の生家跡



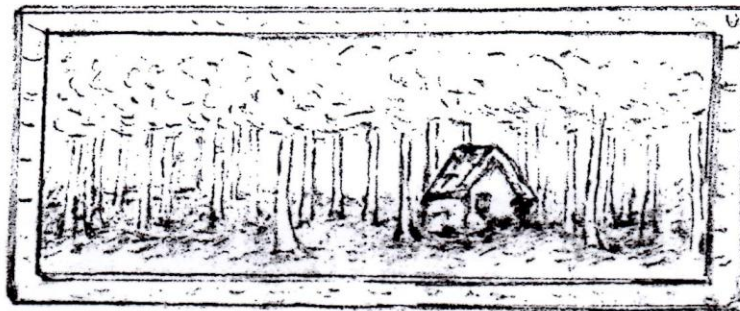
越谷が生んだ洋画家---1880(明治13年)埼玉県南埼玉郡大相模村大字西方197(現・相模町7丁目) 父斉藤孫兵衛(味噌醸造業・大地主)、母美祢の次男として生まれる。長兄と姉3人あり末子、大相模小に入学し、越谷高等小を卒業後、伯母の養子になり日本橋に住み共立学校に入学し開成中学に転校した。1899(明治32)東京美術学校に入り西洋画を学んだ。



同級生には、青木繁、和田三造、児島虎次郎(大原美術館の創設に助力)がいた。1905(明治39年)フランスに渡り 印象主義に影響され「点描画法」を学ぶ。  
 1912(明治45)フランスより帰国、東京に住む。  
 1914(大正3年)フランス人(画家)サランソンと結婚次ぐ年長男「タモツ」誕生。1929(昭和4年)妹「ミツ」生まれる。



美術作品「秋の色」「夕映の流れ」「にわか雨」「残れる光」「朝」など



「朝」齋藤豊作 1918(大正7年) サトエ記念21世紀美術館所蔵(加須市)

「朝」は21世紀美術館を平成20年訪れたとき田端がスケッチしたものです

1920(大正9) 家族でフランスに移り住む。

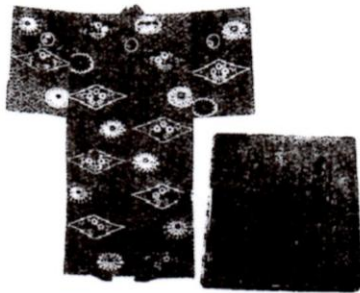
サルト県リュシュプランジェにあるヴェネヴェルの城を購入して住んだ。

1940(昭和15年)ドイツ軍の侵攻でお城を放棄する。

1951(昭和26年)フランス・ヴェネヴェルで亡くなる。

## 大聖寺---大相模不動尊(真言宗豊山派)

真大山大聖寺は大相模不動尊として親しまれてきた。越谷最古の寺院の一つで奈良時代—天平勝宝2年(750)良弁僧正が、相模の大山で自ら刻んだ不動明王をこの地に祀ったのが始まりといわれる。相模国の相模に大をつけて「大相模」と称し、寺の山号を真の大山という意味で「真大山」と名のったといわれる。中世には不動院と称し、岩槻城主であった太田資正や北条氏繁等の篤信を受けて栄えた。



(市指定文化財)

天正18年(1590)、関東に入国した徳川家康は、鷹狩りをしながら各地を巡遊しており、天正19年(1591)に、大聖寺に泊った折家康公から寺領60石を賜り、現在の寺名である「大聖寺」に改められたといわれる。その時に家康公が使用したと伝わる「垢付の寝衣」(越谷市・有形文化財)が残されている。

又、慶長5年(1600)には、上方で石田三成が挙兵したことを知り、会津の上杉討伐のため、下野小山にいた家康公が引き返し、関ヶ原へと向う途中、戦勝を祈願して、太刀一振りをお進したと寺伝にみられる。

元龜3年(1572)に北条氏繁が岩槻城の繁栄祈願を命じた文書「北条氏繁宛書」(越谷市・有形文化財)が残されている。

## 山門

境内入口の山門(越谷市・有形文化財)は、文化元年(1804)に再建されたもので、明治28年(1895)の火災の際、焼かれずに残った建物です。偏額は松平定信(寛政年間の老中)の筆になる。

タブノキ---越谷市・天然記念物

境内に樹齢500年と推定され、高さ8mあるタブノキが見られる。



## 百康申塔

太子堂脇の後堤防近くに置かれていたが関東大震災後この地に移された。



## 中村有道軒の碑



神道無念流の達人、中村有道軒（天明4年(1784)～万延元年(1960)東方村（現大成町）の旧家中村家の嗣子で万五郎政敏と称した。神道無念流の師範、久喜町の戸賀崎知道軒に剣術を学んだ。18歳で初伝の免許をうけた。その後諸国を遍歴して有名剣士と技を競うが敗れたことはなかったという。門弟は1000名を越えていた。

中村万五郎の家は武蔵七党野与党の一族大相模次郎能高の後裔であると伝えられている。

### 大相模不動尊の縁起

良弁僧正が東大寺大仏造営(天平勝宝4年(752)完成)の勧進のため、関東を遍歴し、途中相模の国大山に立ち寄り、大山寺を創建し、良弁が寺に修行中、不動明王が夢に現れ励まされた。良弁は感激し、その姿を一本の槻に二体の不動明王を彫刻した。一体は大山寺に置き、もう一体の一尺七寸の不動明王は、侍者に背負わせ、行脚を続けた。そして、ここ大相模の地に到着し休憩した後、出発しようとしたが動かない。そこで、ここを有縁の地として不動明王像を祀るお堂を建てて安置した。



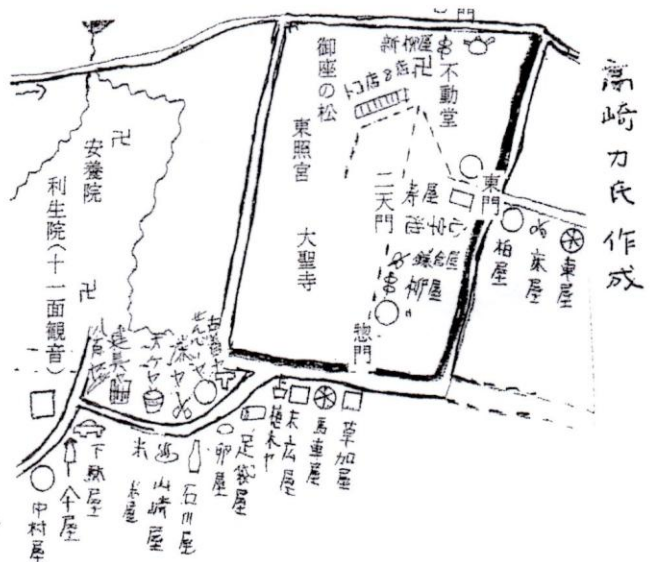
### 不動明王

不動明王とは---悪魔を降伏するために恐ろしい姿をされ、全ての障害を打ち砕き、おとなしく仏道に従わない者を無理やりにしても導き救済するという役目を持っておられ、真言宗の教主「大日如来」の使者であり、お姿は、目は怒らせ、右手に宝剣を持つ 災難を除いてくれる。

### 不動道

「大相模の不動尊」(大聖寺)は、地元及び周辺では「成田の不動」、「加須の不動」とともに関東の三大不動の一つといわれ、多くの参詣客で賑わった寺院である。

この「大相模の不動尊」に通じる道が「不動道」である。





江戸の町を含む広範囲の地域から参拝客が行き来した。「不動道」といわれる道は大聖寺につながる道で幾つかある。



### 馬頭橋とば

#### 不動尊像付道しるべ石造

明和7年(1770)願主石塚長治良  
「不動尊道」が側面に刻まれている。

### 八条用水路

越谷市大相模から中川右岸一帯で八潮市八条までの水田に利用される水をまかなう水路です。

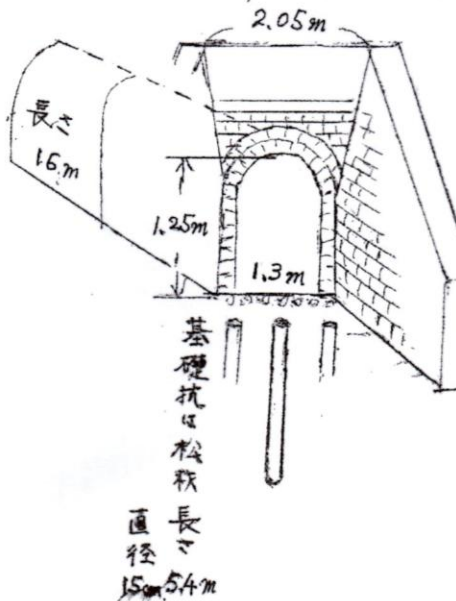
越谷市1.24平方Km、草加市0.78平方Km、八潮市0.35平方Kmの田圃が利用する。越谷市面積60.3平方Kmの30分の1に相当する。

通水は4月26日から8月31日



### 葛西用水路

寛永6年(1629)から用水を引いた。草加市、八潮市、足立区の農家が用水を利用された。



### 谷古田用水路(取水口樋管)

延宝8年(1680)から用水を引いた谷古田用水元は明治24年(1891)に作られ、現在するレンガ造り樋管でも最も古い。

農業用水の取水施設では、レンガ造りの樋管としては日本最古の施設です。今でも私たちの暮らしを支えています。日本土木学会「日本の近代土木遺産」に指定



## 「日本最古の煉瓦造り谷古田用水口公園」

平成24年3月23日までに完成

請負金額 45,037,650円

発注者 埼玉県春日部農林振興センター

道路際の植木は「マテバシイ」、草は「ヒメイワダレソウ」

### 瓦曾根溜井防水碑---前島密の書体

前島密—日本の近代郵便制度の創始者

葛西用水の恩恵に授かっている下流の村々は、溜井が洪水であふれそうになった時、協力して防水につとめた。明治23年(2890)8月23日の利根川決壊にいたり、葛西用水に洪水が流れ込み、8月25日に溜井の水位が増し、今にも溢れそうになった。このため、現在の越谷市は勿論、草加市、八潮市、足立区、葛飾区の葛西用水を利用している農民の働きで防ぐことができたことを記念碑である。



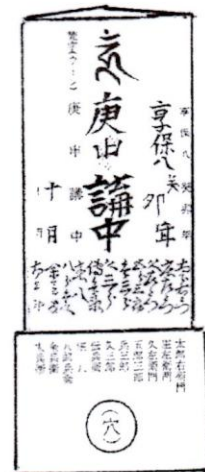
この時に防水を援助した「東京府葛西洲江領有志者」との文字が見られる。

### 庚申講中による道しるべ

この康申塔は、享保8年(1723)造塔された道しるべである。

右面には「これより上、ちおんじ三里はん」  
左面には「これより左、吉川へ壺里おおさがみ内 これより右、市川まで 五里」  
裏面には「たび人の 道しるべともかなしるし石」

「もじはくちせぬ のりのかよいち」  
と刻まれている。



加藤幸一氏の調査



## 瓦曾根溜井からの用水

下流領域数万石の田畑を養う水源地として重要な機能を果たしてきた。

① 四ヶ村用水(慶長年間)—瓦曾根・西方・登戸・蒲生の四ヶ村。現在この用水路沿いの田畑はほとんど潰廃され宅地になり消失した。② 谷古田用水(延宝8—1681) ③ 東京葛西用水(寛永6年—1629) ④ 八条用水(慶長年間—1596～1614) の4個取水口があった。現在農業用水として利用されているのは八条用水だけである。

⑤ 本所上水が引水されたことがあった(延宝8～享保7・1722)

## 時間あったら案内したい場所

### ① 相扶共済の碑

「国民健康保険」発祥の地 ---- 市役所敷地内(本庁舎南側)にある。

「越ヶ谷順正会」の功績をたたえたものです。

### ② 越ヶ谷実践女学校(就業年限二年)跡

大正15年創立、県立越ヶ谷高校の前身。越谷市役所の西。

### ③ 八幡神社

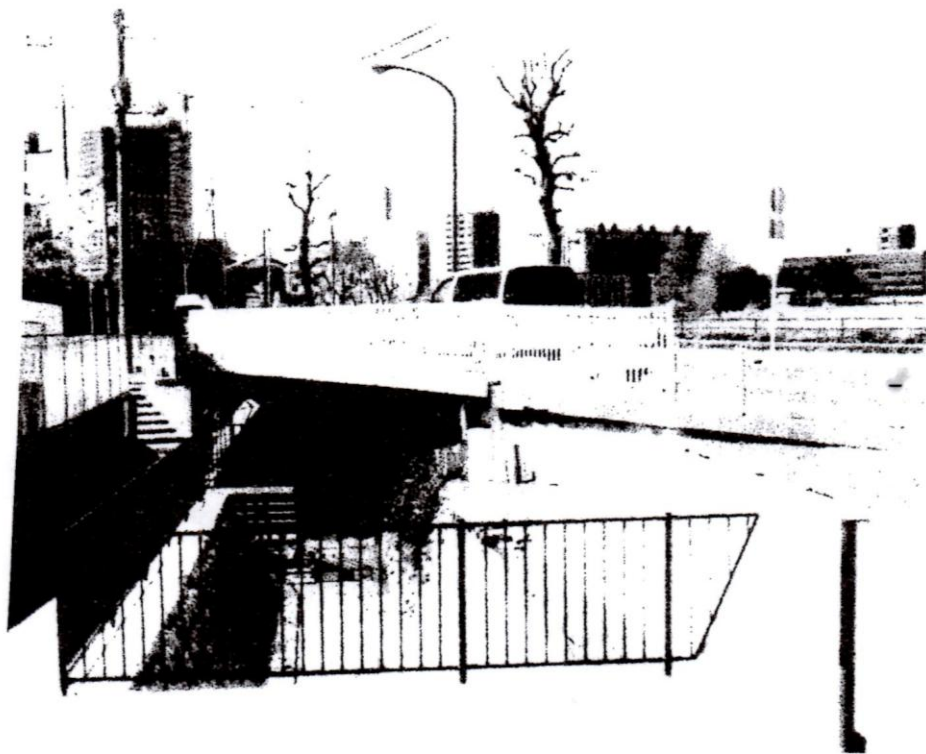
新町の鎮守---日光街道の町並に一角にある。

### ④ 越ヶ谷駅停車場新設記念碑

大正8年越ヶ谷町長を会長として「停車場新設期成同盟会」が結成され、努力が実り、越ヶ谷停車場ができた。

大正9年現在地に新設の越ヶ谷停車場完成の記念碑が、越谷駅前広場の北東に設置されている。





谷古田取水口公園(ポケットパーク)

<次の資料から引用しました>

- 1 越谷ふるさと散歩(上) 越谷市史編纂室(昭和54)
- 2 越谷市史 越谷市役所
- 3 画家・斉藤豊作—越谷からパリー 高崎 カ
- 4 谷古田領元塚(モトイリ)の資料
- 5 越谷の歴史物語 越谷市史編纂室 昭和55刊
- 6 埼玉平野の成立ち・風土 埼玉新聞社
- 7 郷土越谷散策マップ その他